

SPAC 秋のシーズン 2026-2027 —きょうを生きるあなたとわたしのための演劇—

地域に関わる物語から、普遍的な人間のありようを描く

#1『伊豆の踊子』 #2『ニホンジン』

* 8 月 30 日(日)より、一般前売り開始！

年明けは、舞台美術と音楽で彩られる #3『星の王子さま』

平素より、SPAC-静岡県舞台芸術センターに格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

古今東西の名作を、現代の演出でお届けする「SPAC 秋のシーズン」。10 月開幕の今シーズンは昨年に続き劇作家・石神夏希のディレクションによる **くきょうを生きるあなたとわたしのための演劇** というメッセージのもと、第一線で活躍するアーティストたちの 3 作品を静岡芸術劇場はじめ県東部・西部にて上演いたします。

シーズン開幕を飾るのは、多田淳之介演出の『伊豆の踊子』。2023 年に「観光演劇」として立ち上げた人気作が、川端康成の小説発表から 100 周年となる今年、待望の再演を迎えます。続く 2 作目は、ブラジル日系三世のオスカル・ナカザトによる小説『ニホンジン』を、SPAC 初演出となる瀬戸山美咲が舞台化。20 世紀初頭、およそ 100 年前に日本からブラジルに渡った家族 3 世代の物語が舞台に描かれます。静岡にゆかりのある文学、そして地域と関わりのあるブラジル日系移民の物語から、現代を生きる私たちに普遍的な問いを投げかける作品です。

そして年明けは、舞台美術家としても活躍する深沢襟が、作曲家・音楽家として注目される額田大志(ストミック)と創作する『星の王子さま』。“インクルーシブ”をキーワードに、舞台美術や音楽の多彩な効果が作品世界で躍動する新作です。

一般公演では多言語やバリアフリー日本語字幕など劇場をひらく取り組みも実施します。また平日に行われる「中高生鑑賞事業公演」では約 9,000 人が来場予定。幅広い観客へ今を生きる力となる演劇をお届けします。

くきょうを生きるあなたとわたしのための演劇

石神夏希 (アーティストック・ディレクター)

地域の中で埋もれている「聴かれにくい声」に耳を澄ませること。

多田淳之介さん演出『伊豆の踊子』は伊豆半島の魅力を詰め込んだ「観光演劇」としての華やかさが魅力ですが、差別を受けながら流浪する踊子たちの生き様にも光を当てています。瀬戸山美咲さんがポルトガル語で書かれた小説をもとに戯曲を書き下ろす『ニホンジン』はブラジル現地での取材も行い、国内ではあまり知られていない、日本から地球の裏側へと渡った移民の人々の物語を届けてくれます。舞台美術家でもある深沢襟さん演出の『星の王子さま』は、不確かさや弱さが排除されやすい世界（そして劇場空間）を子どものまなざしから問い直すインクルーシブな舞台です。

劇場に来たことがない人に「わたしにも関係のある場所かもしれない」と感じていただける。そんなシーズンになることを願っています。



photo by 牧田奈津美(F4.5)

石神夏希 (いしがみ・なつき) 劇作家。国内外で都市やコミュニティのオルタナティブなふるまいを上演する演劇やアートプロジェクトを手がける。ディレクションの仕事として「東アジア文化都市 2019 豊島」舞台芸術部門事業ディレクター、ADAM Artist Lab 2019 (台北) ゲストキュレーター、静岡市まちは劇場『きょうの演劇』企画・ディレクター (2021 年度) 他。SPAC では 2022・2025 年『弱法師』(作：三島由紀夫)、2023 年『お艶の恋』(原作：谷崎潤一郎『お艶殺し』)、「SHIZUOKA せかい演劇祭 2026」にて『うなぎの回遊』を台本・演出。「秋のシーズン 2025-2026」よりアーティストック・ディレクターを務める。

『伊豆の踊子』

台本・演出：多田淳之介 作：川端康成 映像監修：本広克行

出演：山崎皓司、河村若菜

大内智美、春日井一平、加藤幸夫、桜内結う、館野百代、ながいさやこ、布施安寿香、本多麻紀、三島景太、渡辺敬彦



役者×映像×ポップミュージックが融合する、新感覚の「観光演劇」

小説発表から100周年。観れば旅したくなる——

ノーベル文学賞作家・川端康成の初期の代表作で、今年発表100周年を迎える『伊豆の踊子』。静岡県東部・伊豆地域を舞台とする名作を、2023年、古典から現代戯曲、ダンスなど幅広いジャンルを横断する多田淳之介の演出で「観光演劇」として舞台化。静岡劇術劇場を皮切りに、伊豆下田まで県内5会場を巡演し好評を博しました。

孤独から逃れるため、ひとり修善寺から下田まで旅する青年。その道中で出会った踊子の少女に心を惹かれ、一座と旅をともにするなかで、青年の歪んだ心は少しずつ解きほぐされていくが、やがて別れの時が訪れ——。原作『伊豆の踊子』の青年の視点に、他の川端作品から紐解いた旅芸人たちの物語が重ねられ、そこに生きる人々と出会った青年の心の変化とが多層的に描かれます。舞台の背景には、映画監督の本広克行の監修のもと伊豆で撮り下ろした風光明媚な映像が映し出され、演歌からJ-POP、ラップに彩られたライブさながらの演出が幅広い観客を惹きつけ、旅情を誘います。

本作では伊豆地域と連携し、河津七滝ループ橋でのショートバージョンや修善寺新井旅館でのモニターツアーなど、演劇鑑賞を観光へとつなぐ実証的な取り組みも重ねてきました。今年度は河津町からの依頼で作品にも登場する福田家旅館を舞台にモニターツアーを予定。地域の魅力に新たな光を当て、観光資源への出会いも生み出しています。



【多田淳之介 | 演出家コメント】



©平岩亨

旅のSPAC一座の舞台『伊豆の踊子』は、小説の物語と現地映像、そして小説ではほとんど描かれない旅芸人たちマイノリティの視点から生まれたドラッグクイーンやラップのライブを引っ提げて、静岡、修善寺、下田、沼津、浜北での劇場上演、ご当地河津町の河津桜まつりでの野外上演、修善寺温泉宿でのお座敷上演、昭和女子大学人見記念講堂での東京特別上演と、初演の2023年から毎年場所を変えバージョンを変え「ドサ回り」を続けてきました。そして小説『伊豆の踊子』執筆100周年に合わせ再び静岡に帰ってきます！初演では上演毎に増えていった客席のペンライト、今年はオリジナルペンラを作りたい！皆様と再びこの旅を一緒にできますこと、幸せの極みでございます。

多田淳之介(ただ・じゅんのすけ)

演出家。東京デスロック主宰。古今東西の戯曲の上演、ダンス作品、観客参加型作品など多彩な作品を国内外で上演。創作活動と並行して公共劇場の芸術監督や自治体のアートディレクター、フェスティバルディレクターを歴任。全国の劇場や学校、地域施設でのこどもからシニア、外国人、障害のある方など様々な人々との創作やワークショップ、アートによる地域課題への取り組みを実践する。2013 年日韓合作『가모메カルメギ』にて韓国の第 50 回東亜演劇賞演出賞を外国人演出家として初受賞。四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。SPAC では 2018 年に『歯車』(作：芥川龍之介)、2023 年に『伊豆の踊子』(作：川端康成)、2026 年に『ガリレオ～ENDLESS TURN～』(原作：B・プレヒト)を演出。

【公演日程】

2026 年 10 月 3 日(土), 4 日(日), 17 日(土), 18 日(日), 31 日(土), 11 月 1 日(日)

各日 13:30 開演 (上演時間：130 分)

会場：静岡芸術劇場

10 月 3 日(土)	* プレパフォーマンス / * アーティストトーク
10 月 4 日(日)	* プレパフォーマンス / * アーティストトーク
10 月 17 日(土)	* プレパフォーマンス / * バックステージツアー
10 月 18 日(日)	* プレパフォーマンス / * バックステージツアー
10 月 31 日(土)	* 鑑賞講座 / * 感想シェア会
11 月 1 日(日)	* プレパフォーマンス / * 感想シェア会

◆バリアフリー日本語字幕・英語字幕のタブレット端末貸出サービスがございます。【無料・要予約】* ウェブフォームよりお申込み
[<https://forms.gle/T7uPow1hkTJWQEmSA>]

◆託児サービス (10/17, 18) ・親子室あり

▼関連企画

* プレトーク (一般公演の各日 13:05 より) 舞台をよりおもしろく観劇できるポイントをご紹介します。

* プレパフォーマンス (約 15 分 / 無料・予約不要)

県立清水南高等学校芸術科演劇専攻の生徒たちによる川端康成の生涯についてのパフォーマンス「みにみに川端康成」

出演：県立清水南高等学校芸術科演劇専攻 2 年生

* アーティストトーク：終演後にトークを開催。参加無料 / 予約不要 ※詳細は決まり次第、公式サイトにてご案内します。

* バックステージツアー 終演後、SPAC 創作・技術部スタッフが舞台裏を解説。(約 30 分 / 参加無料 / 要予約)

※ご予約は SPAC チケットセンター (TEL054-202-3399) まで

* 鑑賞講座：10 月 31 日 (土) 11:00～12:15 (参加費：一般 500 円、高校生以下 無料 / 要予約)

※ご予約は SPAC チケットセンター (TEL054-202-3399) まで

講師：福田 淳子 (ふくだ じゅんこ) プロフィール 昭和女子大学大学院生活機構研究科教授。専門は日本近現代文学。著書『川端康成をめぐるアダプテーションの展開——小説・映画・オペラ』(単著 フィルムアート社、2018 年 3 月)、『夏目漱石 修善寺の大患前後』(共著 近代文化研究所、2022 年 2 月) 等。

* 感想シェア会 終演後に『伊豆の踊子』の感想を伝え合いませんか? (予約不要)

中高生鑑賞事業公演 ※以下記載がある日以外はすべて 13:30 開演

* 印の日程では一般販売もございます。(電話・窓口予約のみ)

2026 年 10 月 2 日(金)、6 日(火)13:00、16 日(金)、27 日(火)、28 日(水)*、29 日(木)

11 月 2 日(月)、4 日(水)、5 日(木)18:00 *

■SPAC 秋のシーズン 2026-2027 #1 『伊豆の踊子』

主催・製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター 静岡県芸術祭共催事業

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

『ニホンジン』【新作】

上演台本・演出：瀬戸山美咲

オスカル・ナカザトの小説に基づく

翻訳：武田千香(水声社、2022年)

Copyright © 2011 by Oscar Nakasato | Japanese language theatrical adaptation licensed by Oscar Nakasato c/o LVB&Co. Agência e Consultoria Literária, former Villas-Boas & Moss Literary Agency, Rio de Janeiro, through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo

出演：阿部一徳、池田真紀子、鍛冶本大樹、貴島豪、小長谷勝彦

佐藤ゆず、たきいみき、永井健二、浜野まどか、森山冬子、八木光太郎

山本実幸、吉植莊一郎、吉見亮 (五十音順)

音楽・チェロ演奏：五十嵐あさか



瀬戸山美咲 演出『檀山節考』(「ふじのくににせかい演劇祭 2024」)
撮影：平尾正志

20 世紀初頭、日本からブラジルへ渡った家族の3世代にわたる物語

瀬戸山のブラジルリサーチや、静岡での交流・対話も礎に

ブラジル日系三世の作家オスカル・ナカザトがポルトガル語で書き、ブラジルの芥川賞と呼ばれるジャブチ賞を受賞した小説を、演劇からミュージカルまで幅広く活躍する瀬戸山美咲の台本・演出で舞台化します。1910年代、成功を夢見て移民船でブラジルへ渡ったヒデオ。しかし待ち受けていたのは、広大なコーヒー畑と過酷な現実でした。故郷への帰還を胸に、ヒデオは「日本人」であることにこだわり続けますが、子や孫たちはこの地で自らの生き方を模索し――。

国や民族とは何か、アイデンティティとは何か――、逞しく生きる「ニホンジン」の姿は私たちの心を揺さぶり、分断と対立の加速する現代社会において、文化の異なる他者とどう生きていくのか、私たち一人ひとりに投げかけます。

出演俳優は14名、SPACの俳優陣に加え、瀬戸山との創作経験がある鍛冶本大樹(キャラメルボックス)、浜野まどかがSPAC作品に初出演し、また『檀山節考』でも共演したチェリストの五十嵐あさかの生演奏が舞台を彩ります。

創作にあたり、瀬戸山とアーティストック・ディレクターの石神夏希は今年6月、国際交流基金の事業としてブラジルでのリサーチを行い、小説に描かれた日系人が多く住むサンパウロやトメアスーを訪ね、オスカル・ナカザト氏とも面会しました。また6月下旬に行った第1期稽古で、『うなぎの回遊』(石神演出)に出演した浜松市在住でブラジルにルーツを持つ方からヒアリングも実施。瀬戸山が得意とするジャーナリスト的な視点で、俳優たちと共に移民の歴史背景を丁寧に紐解いていきます。



オスカル・ナカザト氏とブラジル視察にて

【瀬戸山美咲 | 演出家コメント】



オスカル・ナカザトさんの原作に触れ、ブラジルに行って日系移民のみなさんに出会って、わたしの見えている世界は変わりました。これまでわたしは日本人というものを狭い範囲で捉えていたと思います。しかし、ブラジルだけでなく世界中に日本ルーツの人がいて、その子孫が再び日本に戻ってきて新しいコミュニティを築いていることを目の当たりにし、民族で線を引くことの無意味さを感じました。移動する人は、つながる人です。移民のみなさんについて想像することは、このナショナリズムで行き止まった世界を変えていく可能性があります。まずはみなさんの世界に小さな変化を起こせるように。力強く繊細な作品をつくりたいと思います。

瀬戸山美咲(せとやま・みさき)

東京都生まれ。劇作家・演出家。2001年にミナモトを旗揚げ。2016年に『彼らの敵』が第23回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞。ストレートプレイから音楽劇、ミュージカルまで幅広く手がけ、芸術選奨文部科学大臣賞新人賞、菊田一夫演劇賞などを受賞。「ふじのくににせいかい演劇祭 2024」にて『榎山節考』(2023年初演/上演台本・演出)を上演。近作に音楽劇『コーカサスの白墨の輪』(2026年/上演台本・演出)、『火の鳥 異形編』(2025年/上演台本・演出)、ミュージカル『ある男』(2025年/上演台本・演出)、『PERFECT』(2025年/作・演出)など。コミュニティでのワークショップや創作にも継続的に携わる。2022年より日本劇作家協会会長に就任。

【公演日程】

静岡公演

2026年11月28日(土), 29日(日), 12月5日(土), 6日(日) 各日13:30開演

会場：静岡芸術劇場

沼津公演

2027年1月30日(土)13:30開演 会場：沼津市民文化センター 大ホール

浜松公演

2027年2月7日(日)13:30開演 会場：浜松市浜北文化センター 大ホール

◆全公演 ポルトガル字幕あり

◆託児サービス(日程未定)・親子室あり

▼関連企画 ※日程は決定次第、公式サイトにてお知らせいたします。

*プレトーク(一般公演の各日13:05より) 舞台をよりおもしろく観劇できるポイントをご紹介します。

*プレパフォーマンス(約15分/無料・予約不要)

県立清水南高等学校芸術科演劇専攻の生徒たちによるパフォーマンス

*アーティストトーク：終演後にトークを開催。参加無料/予約不要 ※詳細は決まり次第、公式サイトにてご案内します。

*バックステージツアー 終演後、SPAC創作・技術部スタッフが舞台裏を解説。(約30分/参加無料/要予約)

*感想シェア会 終演後に『伊豆の踊子』の感想を伝え合いませんか？(予約不要)

中高生鑑賞事業公演 ※以下記載がある日以外はすべて13:30開演

*一般販売がある日もございます。詳細は演目ページにて。(電話・窓口予約のみ)

〈静岡公演〉2026年12月1日(火)10:00、14:00、2日(水)18:00、8日(火)、11日(金)14:00

〈沼津公演〉2027年1月27日(水)、28日(木)、29日(金)

〈浜松公演〉2027年2月3日(水)、4日(木)、5日(金)、8日(月)

◆アニメーション映画『ニホンジン』8~10月全国ロードショー！瀬戸山美咲のトーク登壇が決定。



2025年、ブラジル屈指のアニメーションスタジオにより映画化され、ブラジルで異例のロングランヒットを記録した映画『ニホンジン』が、2026年8月7日より全国ロードショー！
静岡市での上映アフタートークに瀬戸山美咲がゲスト登壇します。

映画『ニホンジン』シネ・ギャラリー アフタートーク

日程：9月6日(日)13:00の回 上映終了後 会場：静岡シネ・ギャラリー

登壇者：瀬戸山美咲(劇作家・演出家)、積田誠(2ミーターテインメント)

■SPAC 秋のシーズン 2026-2027 #2『ニホンジン』

主催・製作：SPAC・静岡県舞台芸術センター、静岡県芸術祭共催事業

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)独立行政法人日本芸術文化振興会
一般財団法人地域創造

共催：沼津市、公益財団法人沼津市振興公社(沼津公演に対し)

後援：公益財団法人浜松市文化振興財団(浜松公演に対し)

協力：国際交流基金

●お問い合わせ：SPAC・静岡県舞台芸術センター 広報担当 坂本・計見・村上

TEL：054-203-5730(静岡芸術劇場)054-208-4008(舞台芸術公園)／ E-mail：koho@spac.or.jp

『星の王子さま』【新作】



左：深沢襟 構成・演出・舞台美術『ちかくにあるとおく～鏡の国のアリスより～』撮影：平尾正志



右：寺内亜矢子 演出／深沢襟 舞台美術デザイン『鏡の中の鏡』撮影：西野正将

構成・演出・舞台美術：深沢襟 / 音楽：額田大志

原作：アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ

出演：石井麗水、大高浩一、木内琴子、榊原有美、杉山賢、鈴木真理子、武石守正、本多麻紀、牧山祐大、若宮羊市
(五十音順)

砂漠に不時着した飛行士が、ほかの星からやってきた小さな王子と出会う物語を描いた、サン＝テグジュペリの児童文学。人生の謎にヒントを与えてくれる奥深いストーリーや、「たいせつなことは、目に見えない」というメッセージは、世界中で愛され、多くの言語に翻訳され読み継がれています。

SPACで数々の舞台美術を手がけるほか、インクルーシブシアターの演出も務める深沢襟は、変幻自在な舞台美術で、何気ない日常からまだ見ぬ世界への入口を自在に生み出します。演劇と音楽を独自の視点で融合する額田大志との初タッグで、“インクルーシブ”であることを起点に、視覚的・聴覚的な効果を舞台の演出に取り込み、美しさと驚きに満ちた物語世界を創造します。

【深沢 襟 | 演出家コメント】

私たちは、いつから世界を「見えるもの」だけで捉えるようになったのでしょうか。

空を見上げなくなったとき、
押入れの秘密基地から出たとき、
どうしてを言わなくなったとき、
夜が怖くなくなったとき。

「星の王子さま」は、遠い星からやってきた少年の物語です。
けれど、これは今を生きる「私たち」の物語でもあるのだと思います。
出会うこと。
思いやること。
失うこと。
そして、失ってもなお、心の中で思い続けること。
少年の旅を見つめながら、かつての自分と出会い、
自分の中に置き忘れていたものがもう一度そっと動き出す。

「大切なことは、目に見えない」
見えないものに、心を澄ませる。

この作品が、私たちにとっても、見えないものを感じる心、そして想像する力を思い出すための旅になればと思います。



©伊藤華織

深沢 襟(ふかさわ・えり)

静岡生まれ。舞台美術家。武蔵野美術大学で舞台美術家・高田一郎、小竹信節に師事する。2000 年に劇団「ク・ナウカ」に入団、演出と舞台美術の研鑽を積む。2006 年より SPAC に参加。戯曲、演出のイメージのみならず、立ち回る俳優との関係性から空間を創り上げる舞台美術が特徴。SPAC では、『真夏の夜の夢』『白狐伝』(以上、演出：宮城聡)などのほか、『伊豆の踊子』(演出：多田淳之介)、『ハムレット』(演出：上田久美子)などの舞台美術を手がける。近年は活動の幅を広げ、インクルーシブシアターである『ちかくにあるとおく〜鏡の国のアリスより〜』では構成・演出・美術を担当。2024 年、こどもとアートを楽しむためのアトリエ「くうそうときおく」を静岡市葵区にオープン。2026 年 2 月、スコットランドで世界初演されたオペラ「The Great Wave」にて小道具デザインを担当した。

額田大志 (ぬかた・まさし)

作曲家、演出家、劇作家。1992 年東京都出身。2013 年よりコンテンポラリーポップバンド『東京塩麹』を率いる。ミニマルミュージックを現代的に解釈したサウンドで注目を集め、FUJI ROCK FESTIVAL への出演や、台湾のインディー音楽アワード「Golden Indie Melody Awards」へのノミネートなど国内外で活動。その他岩渕貞太、Q/市原佐都子、コンパソズなどのダンス・演劇作品の音楽や、演出家兼音楽家としてフィリピン、インドネシア、韓国など様々な国や地域のアーティストと協働を重ねている。演劇作家として『ストミック』を率い、第 33 回読売演劇大賞優秀演出家賞などを受賞。



©Kana Tarumi

【公演日程】

2027 年

1 月 17 日(日), 23 日(土), 2 月 13 日(土), 14 日(日), 23 日(火・祝), 3 月 6 日(土), 3 月 7 日(日)

各日 13:30 開演

会場：静岡芸術劇場

* 11 月 8 日より一般前売り開始。関連企画等は追ってご案内いたします。

■SPAC 秋のシーズン 2026-2027 #3 『星の王子さま』

主催・製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター、静岡県芸術祭共催事業

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

— 全公演共通 —

●「中高生鑑賞事業公演(SPACeSHIP げきとも!)」

「秋のシーズン」では週末の一般公演に加え、平日には若い世代がはじめて演劇にふれる機会として「中高生鑑賞事業公演」を実施し、毎年約 1 万人の県内の中高生に本格的な舞台鑑賞の機会を提供しています。2003 年度から現在までの累計鑑賞者数は 26 万人を超えます。2025 年からは石神夏希のディレクションのもと、“劇場で世界の凸凹にふれる”を合言葉に、第一線で活躍するアーティストたちの作品をお届けしています。

■チケット発売日 [全席指定]

『伊豆の踊子』・『二ホンジン』(静岡公演) 8/30(日)より 一般前売り開始！

『二ホンジン』(沼津・浜松公演)・『星の王子さま』 11/8(日)より 一般前売り開始！

●料金

一般：4,600 円 SPAC の会個人会員一般：3,900 円

障がい者割引：3,200 円

U25・大学生・専門学校生：2,200 円、高校生以下：1,100 円

※未就学児の入場不可(親子室・託児サービスあり)

●お問い合わせ・チケット購入方法

[全公演]*

SPAC チケットセンター TEL：054-202-3399 (10:00～18:00、休業日を除く)

ウェブ予約 <https://spac.or.jp/ticket>

窓口販売 静岡芸術劇場チケットカウンター (10:00～18:00、休業日を除く)

[沼津公演]* 上記に加え

沼津市民文化センター チケットコーナー 電話：055-933-2059 (受付時間 9:00～18:30)

[浜松公演]* 上記に加え

アクトシティチケットセンター 店頭販売のみ(受付時間 10:00～19:00) HCF オンラインショップ <https://www.hcf.or.jp>

●お問い合わせ：SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当 坂本・計見・村上

TEL：054-203-5730(静岡芸術劇場)054-208-4008(舞台芸術公園)／ E-mail：koho@spac.or.jp